

在宅介護実態調査の集計結果

概要版

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和2年9月

＜多良木町＞

目 次

1	調査の概要.....	1
	（1）調査の目的.....	1
	（2）調査の実施要領.....	1
	（3）回答数.....	1
	（4）調査結果利用上の注意.....	1
2	在宅介護を受けている高齢者の状況.....	2
3	保険外の支援・サービスの利用状況.....	4
4	世帯類型、介護者、本人年齢等.....	5
5	本人の状態.....	8
6	主な介護者の介護状況.....	11

1 調査の概要

(1) 調査の目的

令和2年度に実施する老人保健福祉計画及び介護保険事業計画の見直しに当たり、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実施に向けた介護サービスの在り方を検討する基礎資料とすることを目的としました。

(2) 調査の実施要領

① 調査時期

令和元年11月～令和2年3月

② 調査対象者

町内に居住する在宅で生活をしている要支援・介護認定を受けている高齢者

③ 調査方法

聞き取り調査

(3) 回答数

配布数	有効回答数
125	125

(4) 調査結果利用上の注意

- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超えます。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

2 在宅介護を受けている高齢者の状況

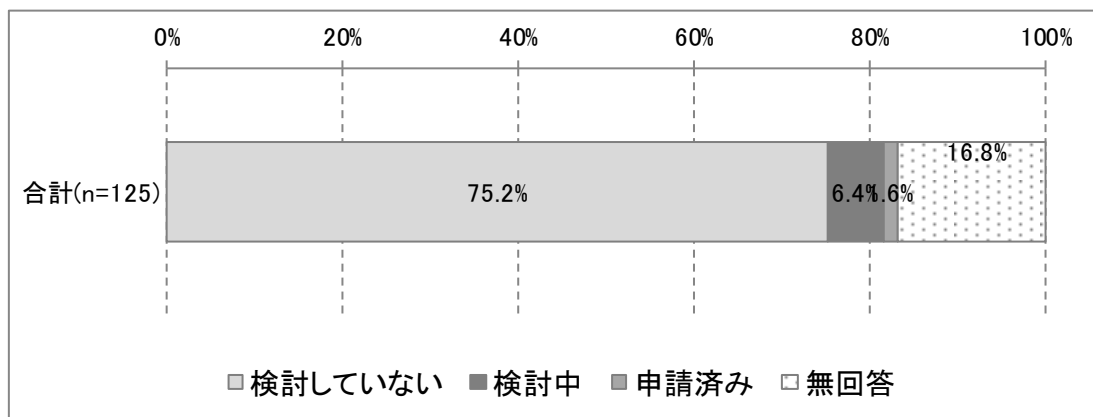
施設等検討の状況について、「検討している」が6.4%、「申請済み」が1.6%となり、「検討していない」が75.2%と8割近くを占めています。

介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が92.8%となっています。

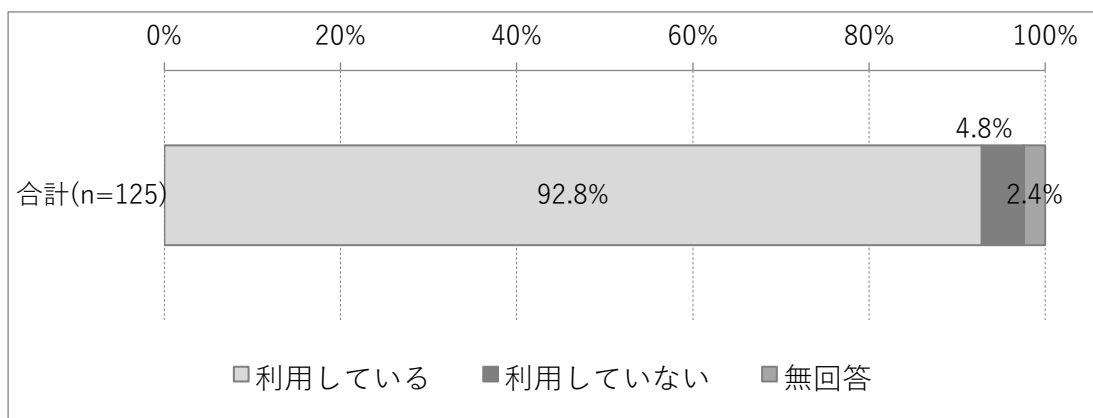
また、介護サービスを受けていない理由としては「無回答」が高くなっています。

主な介護者の勤務形態において、勤務している割合は50.0%（フルタイム:37.3%+パートタイム:12.7%）となっています。

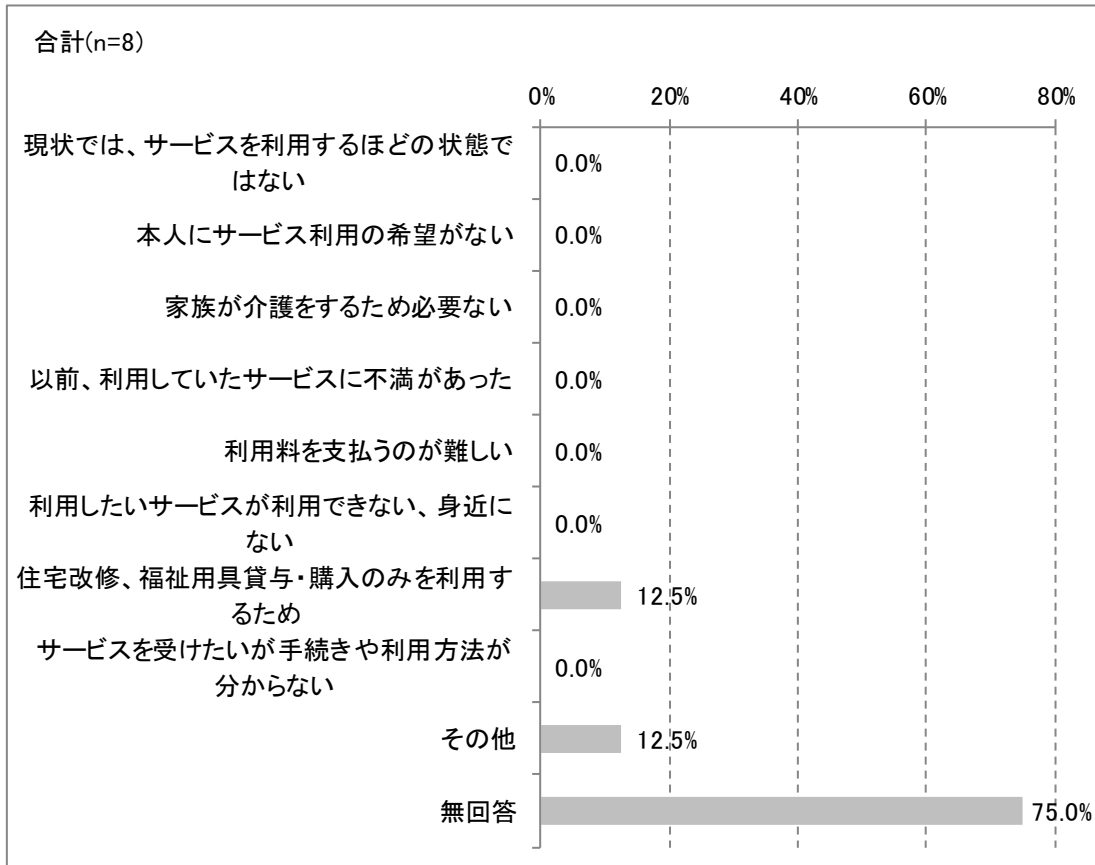
図表1 施設等検討の状況（単数回答）



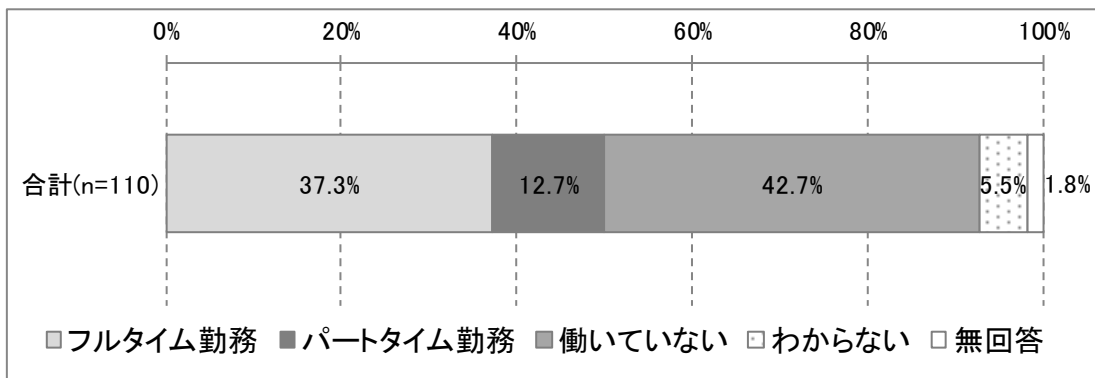
図表2 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



図表3 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



図表4 主な介護者の勤務形態（単数回答）

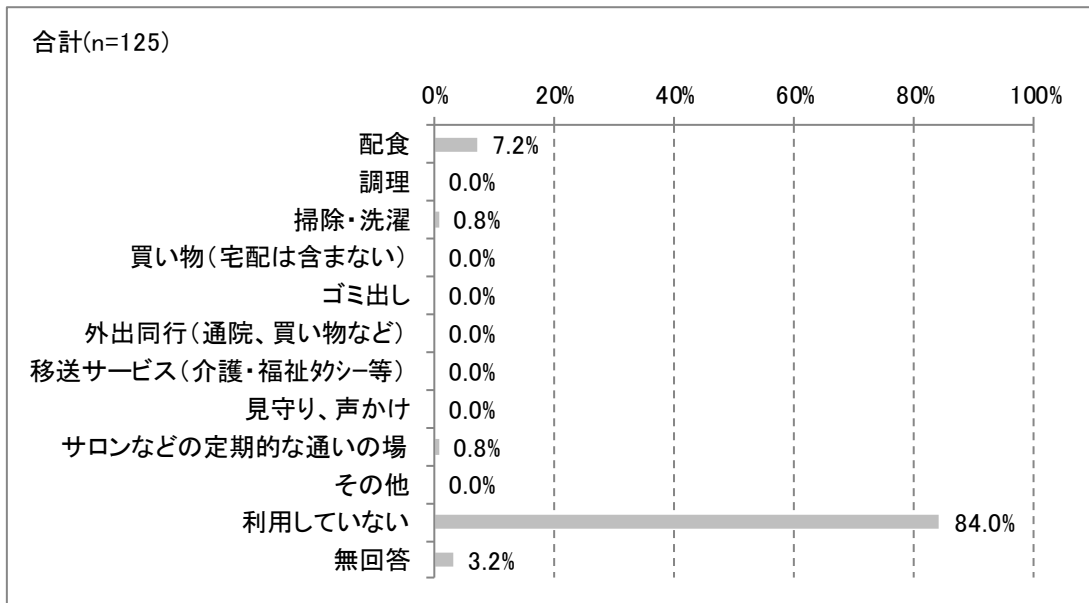


3 保険外の支援・サービスの利用状況

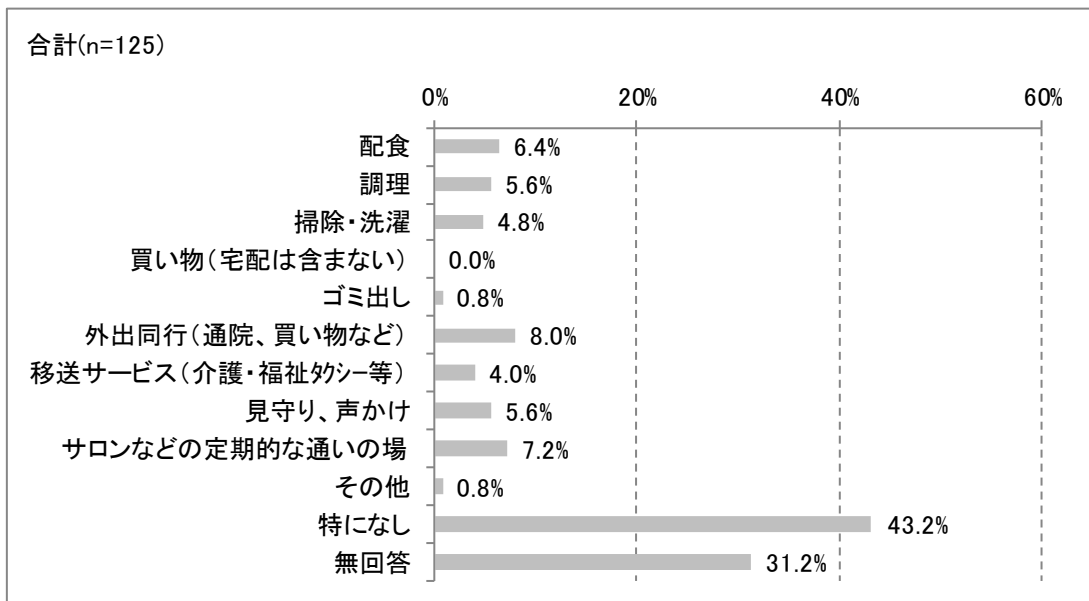
保険外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」の割合が84.0%と8割を超え、利用しているサービスでは「配食」が7.2%となっています。

今後、在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「特になし」が43.2%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が8.0%、「サロンの定期的な通いの場」が7.2%となっています。

図表5 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



図表6 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



4 世帯類型、介護者、本人年齢等

在宅で介護を受けている高齢者の世帯状況は、「単身世帯」が28.0%、「夫婦のみ世帯」が16.8%、「その他」が55.2%となっています。

家族による介護の頻度については、「ほぼ毎日」が65.6%と最も高くなっています。

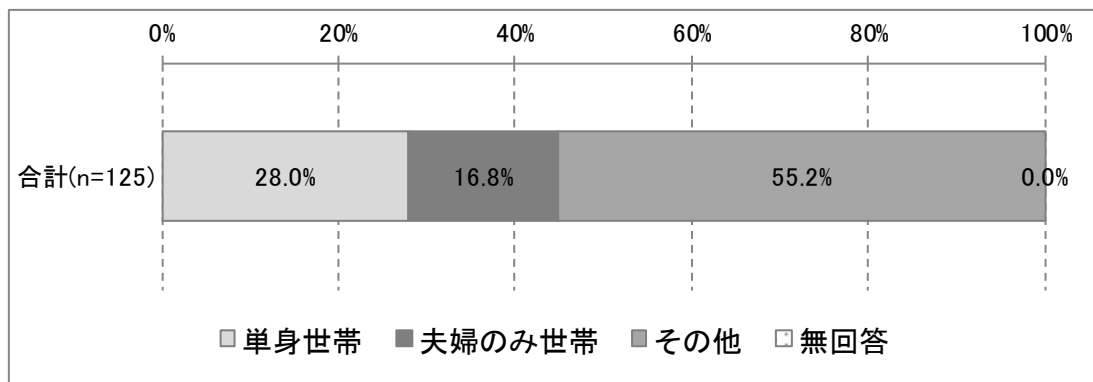
本人の年齢については、「85～89歳」の割合（36.0%）が最も高くなっています。

本人の性別については、「男性」が40.0%、「女性」が60.0%となっています。

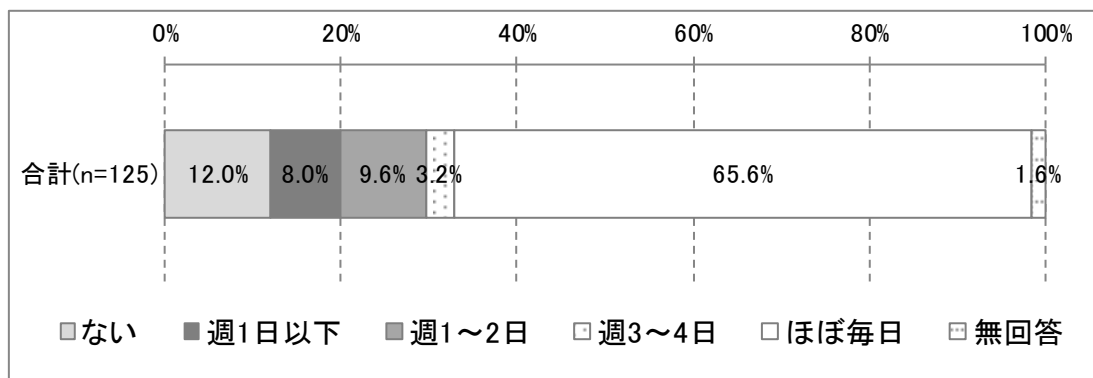
主な介護者と本人との関係については、「子」が44.5%と最も高く、次いで「配偶者」が28.2%となっています。

主な介助者は、「女性」の割合（73.6%）が「男性」（25.2%）の約3倍となり、60歳代（29.1%）が最も高くなっています。

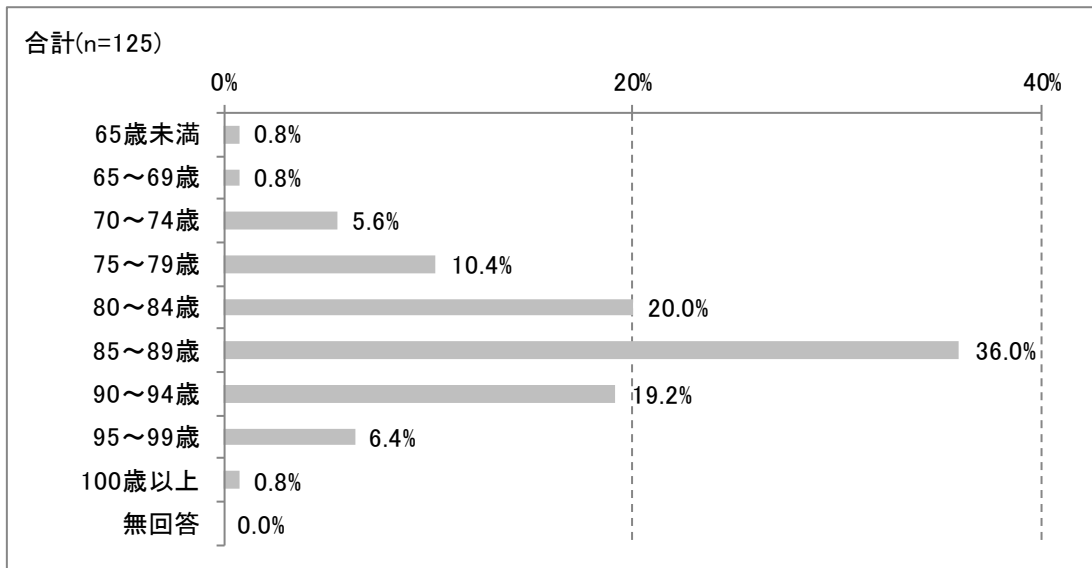
図表7 世帯類型（単数回答）



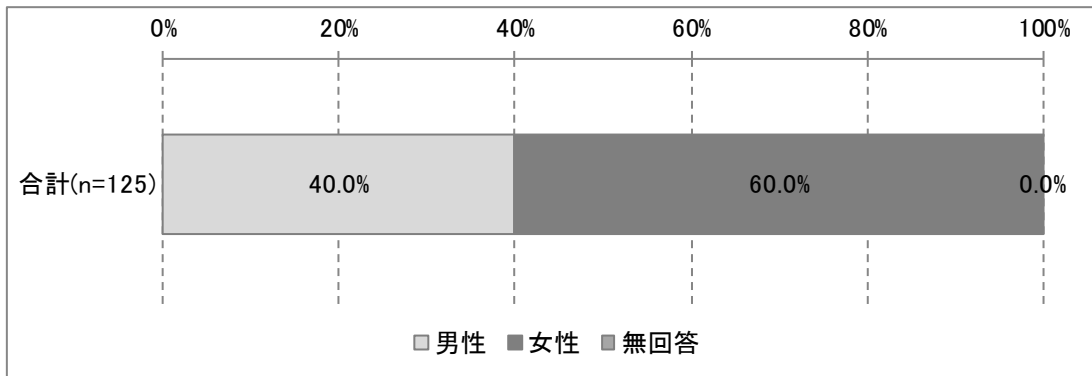
図表8 家族等による介護の頻度（単数回答）



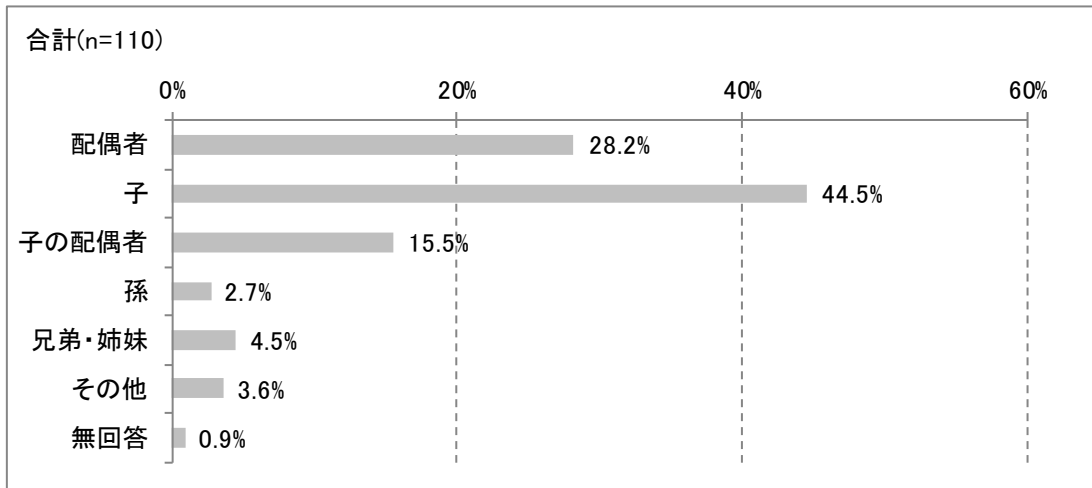
図表 9 本人年齢



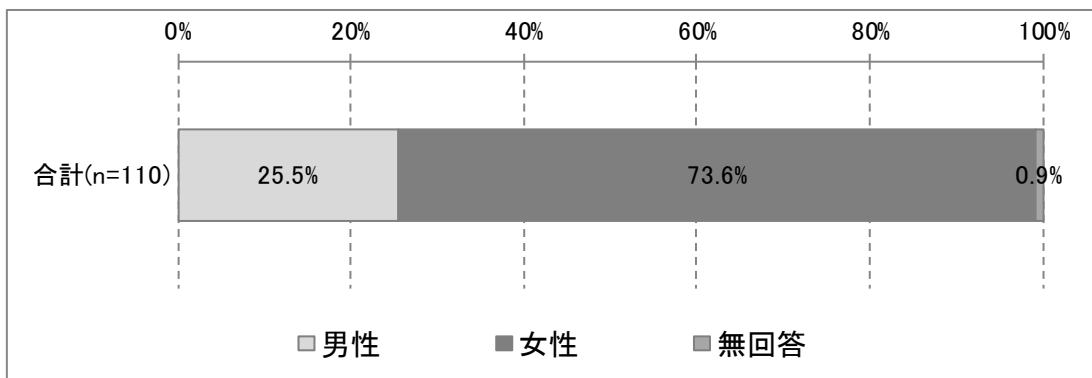
図表 10 本人性別



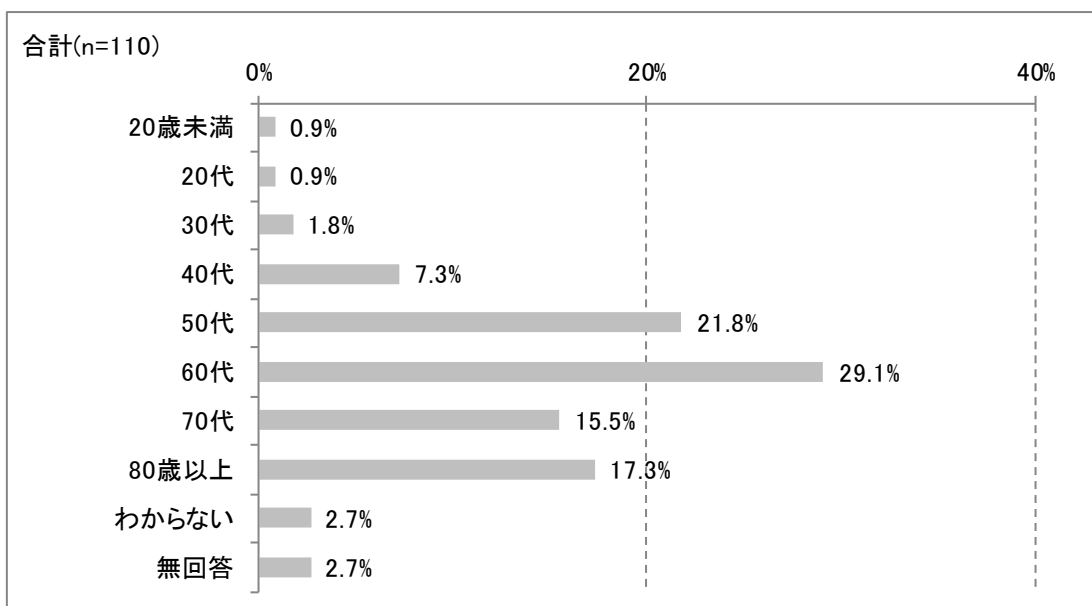
図表 11 主な介護者の本人との関係（単数回答）



図表 12 主な介護者の性別（単数回答）



図表 13 主な介護者の年齢（単数回答）



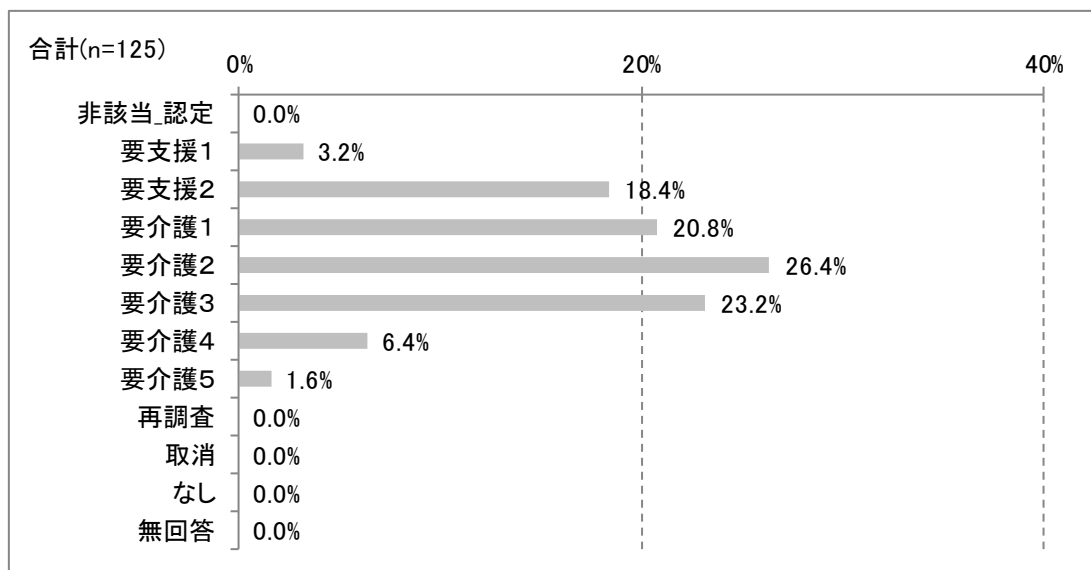
5 本人の状態

本人の要支援・要介護度の結果をみると、多良木町では「要介護2」の割合が26.4%と最も高くなっており、次いで、「要介護3」が23.2%、「要介護1」が20.8%となっています。

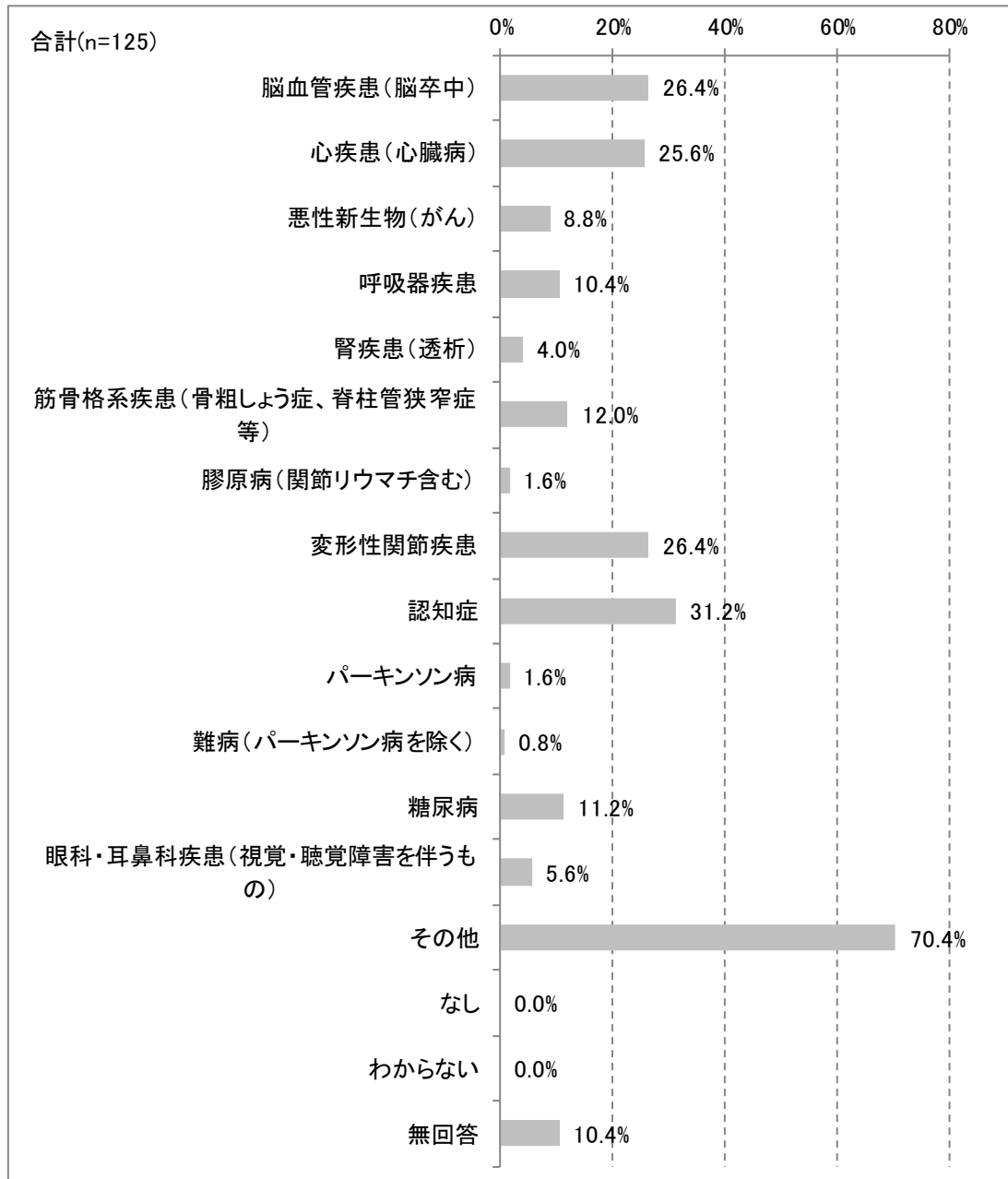
また、本人が抱えている傷病では「その他」の割合が70.4%と最も高く、次いで、「認知症」が31.2%「脳血管疾患（脳卒中）」と「変形性関節疾患」が26.4%となっています。

また、サービス利用の組み合わせについては、「通所系のみ」が49.6%と最も高く、次いで「訪問+通所」が16.0%となっています。

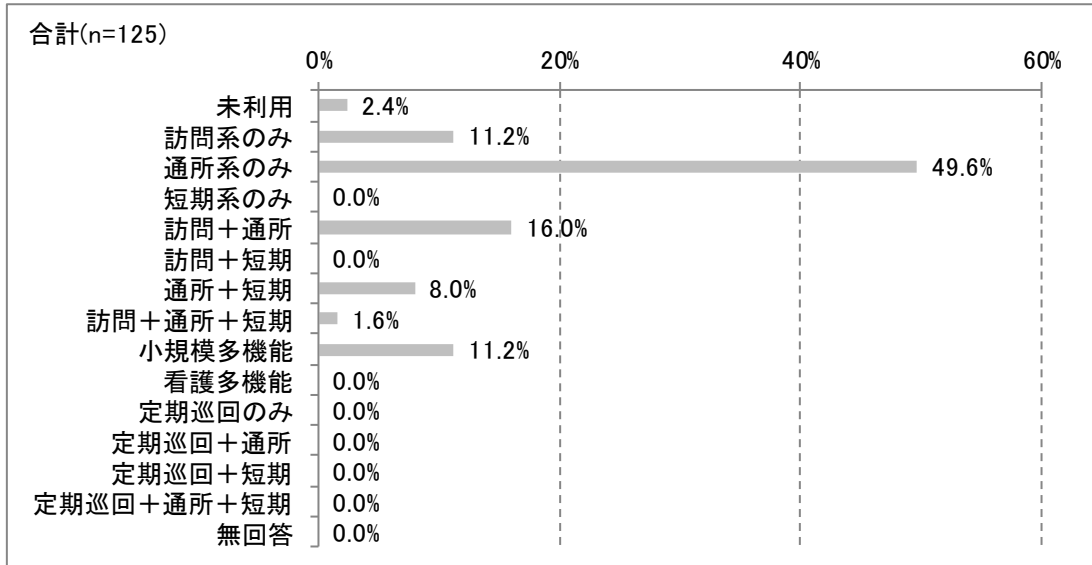
図表 14 二次判定結果



図表 15 本人が抱えている傷病（複数回答）



図表 16 サービス利用の組み合わせ



6 主な介護者の介護状況

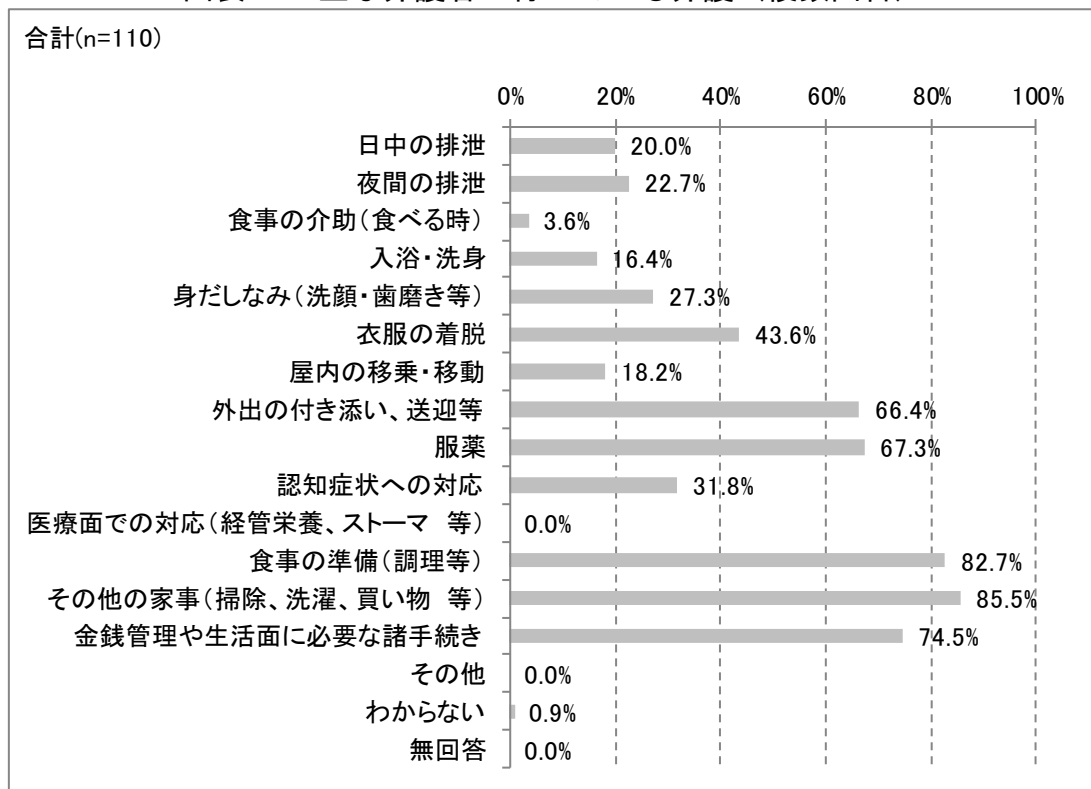
現在、介護者が行っている介護では、「その他の家事」が85.5%と最も高く、次いで「食事の準備」が82.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.5%となっています。

また、今後の在宅生活の継続に向けて、主な介助者が不安感じている介護については、「認知症状への対応」が33.6%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が26.4%、「入浴・洗身」と「外出の付き添い、送迎等」がともに23.6%となっています。

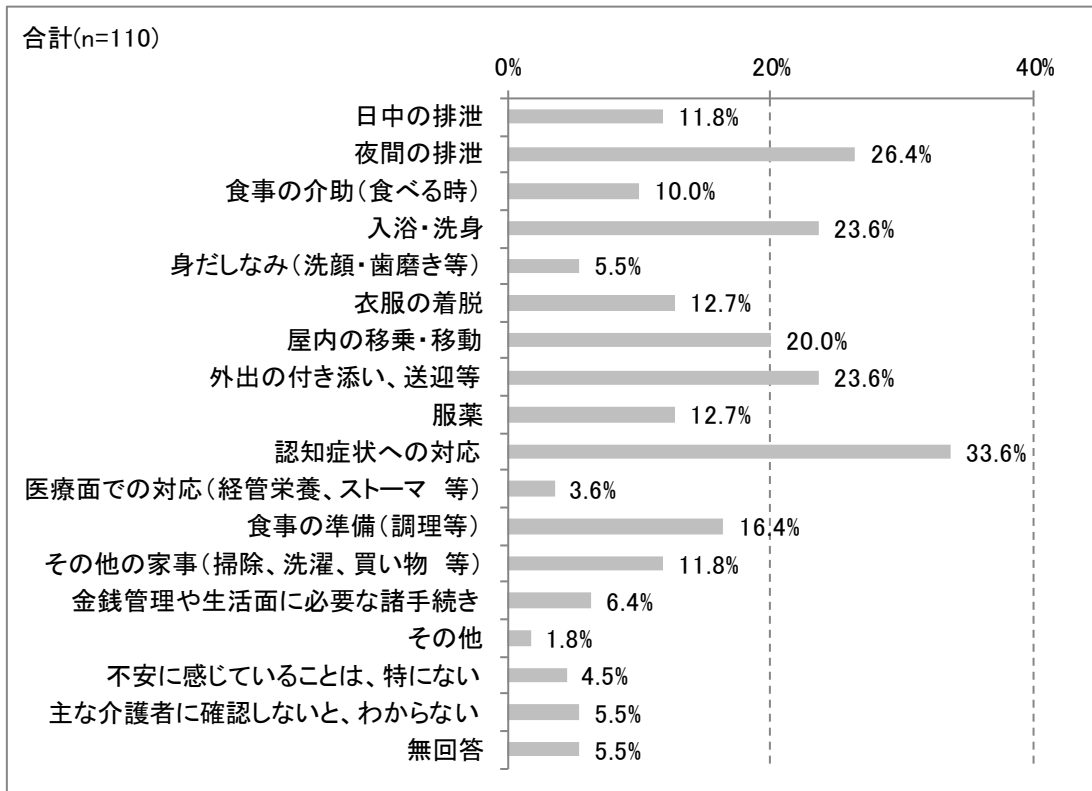
主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、今後も「問題なく続けていける」が19.3%、「問題はあるが、何とか続けていける」が47.4%となり7割近くの方が継続できると考えています。

これらから、介護度や認知症の状況が悪化しないように、介護予防や重度化を防ぐ取組が必要と考えられます。

図表 17 主な介護者が行っている介護（複数回答）



図表 18 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



図表 19 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

